

特集
中学生海外派遣事業
ニュージーランドに
行ってきました

NZ交流団長レポート

平成20年度

中学生海外派遣事業に参加して

佐賀中学校長 井上 一美

本年度のニュージーランド短期海外派遣の参加者は、生徒は7名、引率者は外国語指導助手1名を含め3名と計10名でした。

夏真っ盛りの8月18日早朝、町長をはじめとする行政の皆さまやご家族の方々に見送られ元気いっぱいに出国しました。成田—ニュージーランド間10時間半の飛行のあと、南



島のクライストチャーチ空港で一旦下ろされ、初めての海外に一步踏み入れたのですが、早朝の閑散とした空港待合室は実感として今ひとつでした。

次の日ハミルトンにあるフェアフィールド中学校で、先住民マオリの子どもたちの歓迎を受け、早速来てくれたホームステイ先の子どもたちと教室に向かいました。

気候的には冬ということでしたが、日本の3月から4月初め頃の暖かさで、子どもたちは半袖に裸足という姿が多くあり、日本から行った生徒の中にも、早速裸足になって元気に教室に向かった者もありました。

1日ホストファミリーの家



で過ごした子どもたちが、朝学校が準備してくれた部屋で旅行団全員集まると「日本語が聞きたかった」「何いってるか分からなかった」「どうして良いか分からなかった」「家族の写真を出すと泣きそうで出せなかった」など昨夜の緊張感と戸惑い、そして心細さにあふれていました。

しかし、その日の学校全体での歓迎式では、800余名の生徒や先生の前で堂々とした日本文化の紹介を、身振り手振りをユーモラスに交えながらすることができ、拍手喝采を得ました。その後、それぞれ違う学級でステイ先の子どもと一緒に授業を受けたり、スコーンというお菓子を一緒



に調理実習したり、ともに過ごす内に、朝集まってもステイ先の子どもたちと一緒にふざけ合いながら、前日の様子を楽しく語るようになってきました。

授業最終日の金曜日が終わると「クラスみんなにもう会えないのかな」「授業はわからないことが多くて地獄だったけど、でもっと居たい」など僅か3日間の学校生活も子どもたちにとっては得るものが多くあったようでした。

そして何より、あれほど不安いっぱいだった子どもたちが、ずいぶん逞しくなったと感心させられました。その夜ホストファミリーの家族全員と旅行団、お世話をしてくだ



さったイアン先生とで各家庭からの料理持ち込みで交流会をもち、子どもたち同志はすっかり入り交じって楽しく過ごしました。土日の休日はいにくの天気でしたが、ショッピングやレジヤを家庭毎に楽しみ、月曜日の朝それぞれの学級に思いを残しながらハミルトンに別れを告げました。オークランドで1日過ごし帰途に着いたのですが、その後出発時間の関係で5時起きが続いたにもかかわらず、誰一人として遅れることなく、時間通り集合し、無事帰国しました。





僅か10日ほどでしたが、今回の海外派遣に初めて同行して、改めて子どもたちの柔軟さや逞しさ、そしてこのような機会が与えられるすばらしさを実感しました。フェアフィールド校の生徒は出身が10カ国以上ということ、肌の色や習慣など一目で違いが分かる子どもたちもたくさん居り、また学校生活でも日本の小学校のように一人の先生が全時間を受け持っています。生徒が一齐に同じことをするという授業形式は少なく、部外者が見ると各自勝手にやっ

ているように見えることもありました。本年度は、生徒たちが各学級に分散されているという事情もあり、どの学級にも自由に出入りしていただきという学校側の配慮もいただき、本町の子どもたちの学級だけでなく多くの授業を見せていただいたおかげで、文化や制度の違いを感じました。本町の生徒たちはこのような環境の違いを感じながら、学校生活にも徐々に楽しさを見いだしていききました。そこには子どもたち自身の強さ、それは学校でもステイ

先でも自分でしなければという思いからでしょうか。さらに学校の中では、ステイ先の生徒だけでなくたくさんの方が気軽に声をかけてくれたこと、特に学級に一人いる言葉のよく分からない日本人には優しく話しかけてくれたように、友達もでき、さらに英会話にも自信がついたようです。子どもたちにとっては楽しいだけの海外派遣ではなかったのですが、単に英語だけでなく、違う文化の中に自分を置き、自分を生かすにはどうすべきかと、真剣に考えなければならぬ貴重な機会が得られたことと思います。英語が好きという思い、さらにそれを実際に活用する機会があることを励みに頑張ってきたことで、今回参加した子どもたちですが、英会話以外のものも得たことと思います。この事業を実施するに当たっては多くの方のご理解と、ご支援、さらに担当の方々には多大なご苦労をおかけしました。しかし、子どもたちに、好きなことを一生懸命すること、夢が叶う、そんな事業をぜひ続けて欲しいと願いながら報告をいたします。

派遣生徒7名の感想

海外派遣事業

大方中学校 松下 遠夏

僕は、8月の終わりに9日間、ニュージーランドに行ってきました。

行く前は、もちろん言葉の違いもあるし、文化も日本とは異なるので不安もありましたが、向こうに行ってみると、フレンドリーな人ばかりで、言葉の違いは気になりませんでした。

僕が行ったフェアフィールド中学校では、授業の内容こそ理解できませんでしたが、クラスの生徒たちは、みんな活発で、休み時間には鬼ごっこもできて、ちゃんとコミュニケーションをとることができて、うれしかったです。それに僕は、ニュージーランドにも鬼ごっこがあるんだ、というところに、僕は驚きました。あと、その中学校の生徒が、僕と会うと「こんにちわ」と声をかけてくれて、こんな遠い国の人が、日本語を知ってくれているのが、うれしかったです。クラスでは、50音も知っている人や、合気道を教

えている先生もいて、日本文化がこんなに浸透しているのに驚きました。ニュージーランドの料理も食べられてうれしかったです。

僕は、この研修を通して、文化などの勉強をすることができてとてもうれしく思います。

海外派遣を通して

大方中学校 今村 海里

ニュージーランドでの生活はすごく楽しかったです。

そして、今まで分からなかった自分に足りない所を知ることができました。それに、家族と友だちの存在の大きさや大切さを実感しました。ニュージーランドの人たちはみんなおもしろくて、優しい、心の広い人たちがばかりです。

日本人とは違う考え方や、思いやりなどたくさんさんの文化や自然のすばらしさを学ぶことができました。毎日、一日を充実して過ごすことができたと思います。

ご飯が口に合わなかったり、言葉が通じなかったりして早く家に帰りたかったりも



したけれど、毎日、ご飯を作ってくれたりお世話をしてくれたニュージールランドの私の家族のことを私は絶対忘れません。そして、ニュージールランドであった、たくさんの方たちと学んできたことは一生の宝物にしたいと思います。つらいこともあったけれど、今では全てが大切な思い出です。ニュージールランドの人たちが家族や友達などを大切にしてきたように、私も心の広く豊かな人になりたいです。この研修に参加できて本当に良かったです。ニュージールランドも黒潮町も大好きです。

ニュージールランドで学んだこと

佐賀中学校 森 和花

私はニュージールランドに行くまで、言葉がどれだけかわるかとか、食べ物はどうなるかとか、いろんな不安がありました。

特にホームステイは初めてで楽しみでもあったけれど不安の方が大きかったです。でも実際にステイをしていると、パートナーの子を始め、家族の人がみんなよくしてくれました。

お風呂とか毎日入る習慣のないニュージールランドですが私は毎日シャワーを使わせてもらえたり、ステイ先のお母さんは私の持っていた辞書を使っていろいろ話をしてくれました。

ニュージールランドに行ったばかりのときは、日本が恋しくて「早く帰りたい」とずっと思っていたけれど、慣れてくるにつれ、そんな気持ちもなくなっただけで毎日すごく楽しむことができました。

ニュージールランドへ行って言葉が通じなくて大変だった部分もあったけれど、みんな本

当に優しく、温かかったです。行って本当に良かったと思うし、将来機会があればまた行ってみたいです。

NZ研修に行ってみて

佐賀中学校 小谷 征也

8月末に、NZ派遣事業という企画に行きました。

最初は、初めての海外旅行というのに、戸惑いがありました。一番の心配が海外に行くと、今の自分の英語に自信が持てなくなるのでは、と感じていました。ふたつ目は、行くまでや、帰るときの交通手段などにも、少し不安がありました。しかし、それらは事前研修などで、楽しみへと変わっていききました。

そして、楽しみを胸にNZに着くと、想像を遥かに超えたものでした。まずは、NZは冬と聞いていたけれど、日本ほど寒くないということでした。それと、車が日本と同じ右ハンドルということにも少し驚きました。

ホームステイ先や、学校などで気が付いたことは、とても皆が明るくて、フレンドリーな人たちで、とても安心し

て過ごすことができました。このNZ研修に行くと文化や伝統などを学びました。日本との違いが予想以上に沢山あって驚きました。とても良い経験になりました。

海外派遣事業で学んだ事

佐賀中学校 藤本 真央

私は最初ニュージールランドへ行って本当にいいのかなと思っていました。

なぜかという英語もペラペラ話せるわけじゃないし、好き嫌いやかがあるからです。でも、ニュージールランドへ行ってみると全然違いました。

何が食べたいとか何がしたいとか気づかなくてくれたからです。家でひまな時も、嫌にならないうちにニュージールランド独特の遊びとかもして楽しかったです。だから心配だったステイも明るく元気に過ごすことができました。

でも、やっぱり国が違うので困ったことはいっぱいありました。フォークとナイフの持ち方とかいいことをなかなか言えなかったりとか。そんな時もすぐ来てくれて優しく教えてくれました。学校

でも、ずっと横について、分からないこととかがあったら助けてくれました。

大変で困ったりしたけれど、ニュージールランドの良いところを知れて良かったと思います。この海外派遣事業で学んだことをこれからも活かしていきたいし、次に行く人たちにも伝えていきたいと思いました。

海外派遣事業に参加して

佐賀中学校 濱町 有希

私はこの海外派遣事業に10日間参加して、始めは自分一人でも授業を受けたり、ステイ先で生活したりできるだろうと簡単に思っていました。

でも、ニュージールランドへ行ってみると、自分以外は外国人で日本語も通じないという環境で何度も泣きそうになったり、嫌になったりすることがありました。

一緒に行った他の6人ともあまり会うことができなくなりました。だんだん日がたつにつれて英語にも慣れてきたころに学校へ行くのが終わって、とても悲しかったです。

この海外派遣に参加して、やっぱり日本とニュージーランドの違いに困りました。言葉の違いや、文化の違い、食べ物の違いなど、困るものばかりでした。

言葉では、全然自分の言いたいことが言えず困りました。日本語がまったく通じなかつたり、自分の英語が通じなかつたりすると一人ぼっちだなあとときどき思う時もありました。けどホームステイ先

海外研修を体験して

佐賀中学校 打井 泰樹

ホームステイ先でも慣れてくると自分からどんどん話しかけられるようになって楽しく過ごせました。ステイ先の人と離れるときは悲しかったけど、この経験で家族に対する気持ちが変わりました。

私は海外派遣事業に参加して日本とニュージーランドの文化の違いがとても理解できました。

これからは、この経験を将来に活かしていきたいと思うし、この海外派遣事業はなくしてはならないことだと改めて思いました。



子どもが日本語に興味をもつてくれたり、日本の漫画やアニメなどの話をしてくれました。『会話』をすることができました。

食べ物の違いでは、お米とかが口に合わず、あまりおいしかったという料理はありません。でも、ホーキーパーキーパーキというアイスはすごくおいしかったです。文化の違いでは、とにかくお水に困りました。シャワーなども2日に1回とかだったので、すごくお水は貴重なんだと感じました。でも、ニュージーランドの水はおいしかったです。

今回の海外研修は、家族の偉大さがわかったような旅でした。



まちのどきぽんと
なぶら「花いっぱい運動」を実施しました

9月23日、町内でまちづくり活動を行う団体「なぶら」（長嶋千代美会長）が、コスモスの種まきを行いました。

この行事は「なぶら」が、年間通じて行っている花いっぱい運動のひとつとして、伊与木川の堤防や、上分地区の休耕田をお借りし、実施しているものです。

当日は、メンバーと家族の皆さんが集合し、小さなコスモスの種をていねいに蒔きました。

大方生華園 シクラメン祭り

11月8日(土)～同月24日(月)
午前9:30～午後3:00
大方生華園内ハウスにて雨天決行

シクラメンは県外発送可。その他たくさんのお花が大特価!!
初日のみ模擬店(たこ焼き・焼そばなど)あります。

知的障害者授産施設大方生花園 ☎43-3666 (黒潮町田野浦518)

なぶらボランティア募集

- *花が好きな方。いっしょに植えてくれる方。
- *草刈りなどを手伝ってくれる方。
- *まちづくりに興味がある方。

○お問い合わせ
佐賀総合支所 総務課
☎55-3113

10月より総務課企画振興係にて勤務することになりました。戸惑うことばかりの毎日を送っていますが、1日でも早くみなさまのお役に立ちたいと一生懸命頑張っています。よろしくお願いいたします。



さか ちと はる ひこ
坂本 春彦

新規採用職員紹介

10月1日付けで黒潮町役場に新規採用されました。どうぞよろしくお願ひします!

【配属】
黒潮町役場 本庁総務課 企画振興係